

過去、現在、未來それは我々の作り爲した時の微妙な連鎖である。希望に醒め、歡喜に働き、感謝に眠る。

おと……そこに偉大な明るい世界は築かれ行く。斯くて私は懊惱から歡喜へ、暗黒から光明へと進んで行く。

宗教的生命の深さ

竹 多 快 照

靜かに冥想にふける。地球上に人類が生存して以來の儒要に應じて生れた宗教の数はどんなに多い事だらう。それ等宗教の興亡變遷の跡を探究するならば、古今獨歩の優秀なる宗教、或は線香花火のやうに其場限り消ね去つた宗教等千差萬別數限りもないであらう。併し如何に偉大なる宗教でも最初は唯一個人の意識内容の一事實に過なかつた。この事實を言葉または行爲に表現した。それを大衆は耳より眼より己が意識へ受容した。かくて最初証覺を得た人と共通した思想信仰を大衆が持つやうに

なり、こゝに完全な宗教團體が生れた。かやうな過程進路をたどらずに完成した宗教は今日迄唯の一も無い。

今や世界に教勢を張つて居る基督教も其の初めはイエスの信仰意識に現れた神の一觀念に過ぎない世界的宗教として亞細亞を中心として信奉されてゐる佛教も其淵源を尋ねればカピラ城の一皇子悉多太子の意識中に芽蒔けた一思想であつた。かうした宗教的天才の出現は必然か將た偶然か。大聖佛陀を生んだ印度の文化史、イエスを出したイスラヘル歴史は何よりも雄辨にそれを物語り明快なる解答を與へてゐる。

必然なる史的背景を作つた者は誰か。これ過去の民衆以外に誰あらう。若し人類に文化を繼續傳持する力が欠けて居たら燦然たる印度やイスラヘル文化も無く、宗教的二十大天才も其發芽以前に朽ち果てて了つたのかも知れぬ。釋迦やイエスはあらゆる點に於て一般民衆より優秀であつたと誰が証明し得やう。然し彼等は唯一つ到底他人の企て及ばざる卓越性を持つてゐた。そは人間の本然的欲求心を見だす力である。

人心の奥底には已むに已まれぬ宗教的要求がある。久遠の生命を得んと欲する要求がある。あらゆるものは無常である。有限である。之に對して常住なるもの、永遠なるものを求めて止まない。この要求は自己意識と宇宙と一致冥合せんとする要求であり、神に一如せんとする欲求である。自己意識

の統一を要求する處に生まれた神人合一の境地を如實に見出し、それを如實に表現する聖者の出現を熱望してゐた民衆、これを了知したのは實に大聖釋尊であつた。亦民衆は哲學的に眞理を探究する事より、現世に於て幸福に生活する事が最も緊要切實な問題であつた。この目的遂行に最も必要なのは人倫道德の普及である。茲に民衆は思想上のあらゆる疑問を氷解してくれると同時に實踐的に必要欠くべからざる人道宣傳の爲に身命を捧げる聖者の出現を望んで已まなかつた。

此の瑞雲に乗じて現れたのが、所謂大聖釋迦、イエス、マホメット、孔子、ソクラテス、日蓮等の宗教的哲學的天才であつた。民衆は雲を作り、天才は雲を雨として降らす。民衆と天才の差は是のみである。雲も雨も同一水であり、民衆も天才も同じ人の子である。想ひ茲に至つて生命の深さと人生の眞劍味を轉た思はざるを得ない。

微 笑

福 山 一 步

紅梅の音なく散つて宿暮るゝ